

第 242 回 日本経営倫理学会・理念哲学研究部会の議事録

部会長 村山元理

日時 平成 31 年 4 月 22 日 (月) 18:00-20:00

場所 企業家ミュージアム (丸和ビル 2 F 外神田 2-2-19)

参加者 古山、宇佐神、山本、長塚、井上、緒賀、望月、村山 8 名

欠席届 新川、青木、辻井、市川

庶務事項 学会動向、2018 年度反省・会計報告と 2019 年度の方針 村山

研究発表 Donna Wood らの GBC(Global Business citizenship)論の検討 村山

配布: 「K 銀マン・佐藤陽一さんのサラリーマン人生と哲学」(村山著)

学会動向の概要

ガバナンス部会のメンバーたちが法令コンプライアンス部会を新設、組織外の法令と倫理の問題を扱うため。ESG 投資部会が ESG 投資・SDGs 研究部会へ名称変更。CSR 研究部会が 3 作目の『石田梅岩と経営倫理』出版へ、本年度は「上杉鷹山と経営倫理」の研究で山形県米沢へ交通費申請する。本部会の過去のテーマがうまく利用されている状況あり。本部会におられた石塚光政先生(上杉鷹山の研究者)を紹介へ。

今年の研究大会は、6 月 22・23 日で大岡山の東京工業大学で「A I と経営倫理」。技術倫理で高名な札幌野順先生が大会委員長。

昨年度の成果、研究報告の概要と議論

- ・小嶋千鶴子という女性経営者を小売業界の大規模産業化の中で位置づける。
- ・(古山) どのような視座で位置づけるかが重要で、著者は一人にして統一的に記述し、残りの者は補佐するのがよい。
- ・CSR 論が新古典派経済学や地域倫理との対立において限界があり、それを超える GBC のプロセス理論(4 段階)の理論が提唱され、それはハンメルとプラハラドの多国籍企業の経営戦略理論を援用していること。普遍的原理に大宗教に共通の倫理原則があることを説明し、道徳と倫理は何かについて議論が紛糾することとなった。
- ・(望月) 公共哲学との関連 (緒賀) 現代社会の科目名が公共へ、企業市民概念はイギリスから。
- ・(緒賀) 道徳心理学では 200 人規模までの生物学的限界における共同体から来る道徳、それを超えた規模での文化的な装置における理性的なメンタリティ、倫理を区別して議論している。米国での道徳心理学の理論、マイケル、Jonathan White, Joshua Greene 『深淵な実用主義』の議論がある。
- ・(井上) Step3 で地域の歴史・文化と多国籍企業の論理が衝突して和解(reconcile)はあるのか? (古山) 大企業の理論に統合・妥協ということだろう

(山本) 多国籍企業が現地で成功する秘訣：目的の共有化、現地の思考に即して考えること。(昨日の交流例会での東京国際大学経営倫理センター長の国際経営学の視点から)

・(宇佐神) 和辻は、人間は共同体を作るものとして、絶対的全体性としてとらえる。西洋は個人主義から発しているが、アリストテレス以来の倫理学を反省して、日本の倫理学を捉えた。和辻の弟子が金子武蔵、その弟子が宇佐神。

・人は時間と空間の中で行動を通じて日々の要求の中で倫理を構成していくと金子先生は論じた。ゲーレンの「人間学の探求」。人間は学習を通じて体験し成長する。法政大学出版に翻訳あり。

今後の予定

5月27日(月) 企業家ミュージアム

宇佐神 ゲーレン哲学(案)

緒賀 米国の道徳心理学の知見の紹介(案)

6月24日(月)

7月22日(月)